

第7回年会報告

[招待講演] (敬称略)

- ・長野哲雄 (東大院薬、東大創薬センター)
「ケミカルバイオロジー研究：分子イメージング研究とアカデミア創薬研究」
- ・井上和秀 (九州大学大学院・薬学研究院・薬理学分野)
「ATP受容体と神経障害性疼痛治療薬創製」
- ・成宮周 (京都大学大学院医学研究科神経細胞薬理学、メディカルイノベーションセンター、京都大学次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点)
「私のキャリアと創薬」

[国際シンポジウム] (敬称略)

- ・ Terry L. Sheppard (Chief Editor, Nature Chemical Biology Editorial Office)
演題不明

- ・ Haian Fu, Ph.D. (Professor of Pharmacology, Hematology & Medical Oncology, Director of Emory Chemical Biology Discovery Center, Emory University. Atlanta, GA USA)

「Targeting protein-protein interaction interfaces for small molecule modulator discovery」

○吉田 稔^{1,2}、伊藤昭博^{1,2}、佐々木和樹^{1,3}

○Minoru Yoshida^{1,2}, Akihiro Ito^{1,2}, Kazuki Sasaki^{1,3}

1)理化学研究所・吉田化学遺伝学研究室、2)ケミカルゲノミクス研究グループ、
3)JSTさきがけ

「がんにおけるタンパク質アセチル化のケミカルバイオロジー」

- ・ Gerald R. Crabtree (Professor, Stanford University School of Medicine)

演題不明

- ・ Masatoshi Hagiwara (Graduate School of Medicine, Kyoto University, Japan.)

「New chemical therapeutics of congenital genetic disorders targeting pre-mRNA.」

[ポスター賞] (敬称略)

- ・ 傳田 将也 (徳島大学大学院薬科学教育部)

「新規タンパク質選択的ラベル化試薬“SEAL-tag”の開発研究」

- ・ 花岡 健二郎 (東京大学大学院薬学系研究科)

「アゾ基を利用した低酸素環境検出蛍光プローブの開発と応用」

- ・ 山本 誠 (京都大学大学院医学研究科)

「宿主機構を標的とした次世代抗DNAウイルス薬の開発」

- ・ 平林 歩 (慶應義塾大学理工学部応用化学科)

「ポルフィリン誘導体によるアミロイドβの光分解」

- ・ 串田 優 (東京大学大学院薬学系研究科)

「新規赤色蛍光色素の開発とプロテアーゼ活性検出プローブへの応用」